

## 教員おすすめ図書コーナー推薦書

教 員 氏 名 宮田 剛志 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：自信</p> <p>著 者：ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</p> <p>出版社：ダイヤモンド社                      ISBN：9784478107973</p>	<p>本書では、「自信はどこから生まれてくるのか？なぜ、ささいな出来事で揺らいでしまうのか？成果の原動力として欠かせない、自信を培う方法、そして自分を支え、メンバーを元気づける方法」が紹介されています（帯より）。例えば、準備万端でも、なぜ、面接本番で失敗してしまうのか（pp.68-70）、スピーチではなく会話をする（pp.74-75）等々のテクニックに関しても説明がなされています。そして、「このような新しい方法のための能力を開発することで、居心地のよい領域（コンフォートゾーン）が広がり、自然な表現のレパートリーが増え、成長する」ことが可能となっていく点に関しても同様です。そして、これらの点を通じて、「あなたがなりたい人物ーいまは違うが、将来そうなりたい理想の自分ーになる方法であり、採用面接に成功する方法でもある」（pp.75-76）ということのようです。なお、ハーバード・ビジネス・レビューとは、ハーバード・ビジネス・スクールの教育理念に基づいて、1922 年、同校の機関誌として創刊され、エグゼクティブに愛読されてきたマネジメント誌です（カバーより）。</p>
<p>② 図書名：私の財産告白</p> <p>著 者：本多静六</p> <p>出版社：実業之日本社                      ISBN：9784408395821</p>	<p>渡部昇一（2023:pp.226-241）『新・知的生活の方法 知の井戸を掘る』青志社、では、「知的生活」と「経済生活」を立派に両立された先達として、本多静六先生（「日本の林学の父」、東京帝国大学教授等々）が紹介され、また、サミュエル・スマイルズの『自助論』等とあわせて、本書の内容が概要的に説明されています。その際、渡部（2023:pp.227-241）は、本多先生が本書に込めた意図として、自序の次の点から自明とされています。具体的には、「財産や金儲けの話になると、在来社会通念において、いかにも心配が陋劣（ろうれつ）であるかのように思われやすいので、本人の口から正直なことがなかなか語りにくいものである。金に一生苦労しつづける者が多い世の中に、金について真実を語るものが少ないゆえんもまた実はここにある。それなのに、やはり、財産や金銭についての真実は、世渡りの真実を語るのに必要欠くべからざるもので、最も大切なこの点をぼんやりさせておいて、いわゆる処世の要訣を説こうとするなぞは、おおよそ矛盾もはなはだしい。そこで、あるいは蒙るであろう、一部の人々の嗤笑（ししょう）を覚悟の前で、柄にもなく、あえて私の行うに至ったのが、この『私の財産告白』である。もとより平々凡々を極めた一平凡人の告白である。しかも、それが予想に反して、知名の財界人を始め、各層社会人の間に、多数の共感共鳴者を発見するに及んだのは、老生近頃の最大欣快事であればならぬ」（pp.7-10）といった点になります。</p>
<p>③ 図書名：農村政策の変貌 その軌跡と新たな構想</p> <p>著 者：小田切徳美</p> <p>出版社：農文協                      ISBN：9784540201738</p>	<p>2020 年農業センサス分析を行った橋詰（2025:p.6）では、2015 年農業センサスの結果を地域の実態を踏まえて分析を行った安藤の次の点、「この 5 年間（2010 年-2015 年）の農業構造変動を『縮小再編』と捉え、『縮小が勝るか再編が勝るか』の鍵は、経営継承が握っている」と総括している。農業経営体の減少に対応した受け手となる「担い手」層の地域的アンバランスによって、『担い手』層が不足する地域での農地荒廃が加速し、定住人口の減少と相まって地域社会の存続にまで影響を及ぼしかねない兆しが 2015 年センサスの結果の端々に現れていた」等を引用されています（『新基本法下での農業・農村の変容』筑波書房）。</p> <p>本書では、当然、このような点の内容も踏まえながら、農村研究における理論と政策の「今」や、農村再生の議論と実践等が論じられており、ポストコロナの農村に関する理解を深めるにあたり最適、かつ、最新の図書の 1 冊です。</p>